

1月のベストセラーブック！～集計の都合で少し前のランキング～

- ★ **1 電浴 GO!!** けんちんさんは1月に電気風呂マニアとしてテレビ番組「マツコの知らない世界」に出演。その効果で見事ランキング1位となりました！
けんちん 最近では電気風呂以外に新しい本も計画してるとかしてないとか……。
- 2 散策！関西ローカルチェーン酒場「得一」** 酒と散策（スズキナオ・橋尾日登美）
- 3 韓国酒旅日記** naengmyeonjp
- 4 ながまきタイトルワークス** ながまき（ニシヨクフトウメイ）
- 5 美味しんぼの話をさせて！** スカッシュ



★シカク月報の配布協力募集！

シカク月報を配ってくれるお店やスペースを募集しています。お礼としてチラシやショップカードを送っていただければ、シカクの店頭や通販で配布いたします。

現在の協力店舗さま 模索舎(東京)／BiblioMania(名古屋)／本屋B&B(東京)／ブックギャラリーポタム(東京)／FOLK old bookstore(大阪)／古本屋貳拾八(広島)／花森書林(神戸)／タコシェ(東京)／なんば紅鶴(大阪)／シネ・ヌーヴォ(大阪)／雑貨屋ミケちゃん(大阪)／ホホホ座(京都)／ロフトプラスワンウエスト(大阪)／オソプランコ(大阪)／solaris(大阪)／誠光社(京都)／恵文社(京都)／(本)ぼんぼんぼん(大阪)／トランスポップギャラリー(京都)／マヤルカ古書店(京都)／OF(岡山)／ON READING(名古屋)／古本屋YOMS(香川)／古本ながいひる(岡山)／エフロノット(大阪)／opal times(大阪)／ンケリコ(大阪)／SOMA(大阪)／SPBS本店(東京)／1003(神戸)／TOKYO PIXEL(東京)／喫茶ペーパームーン(静岡)／旧グッゲンハイム邸(神戸)／フレイムハウス(大阪)／ブックバーひつじが(福岡)／君の好きな花(福岡)／スペースばせか(京都)／ベアトラップギャラリー(大阪)

シカク

大阪市此花区梅香1-6-13
平日 14時～20時
土日祝 13時～19時
火水定休日



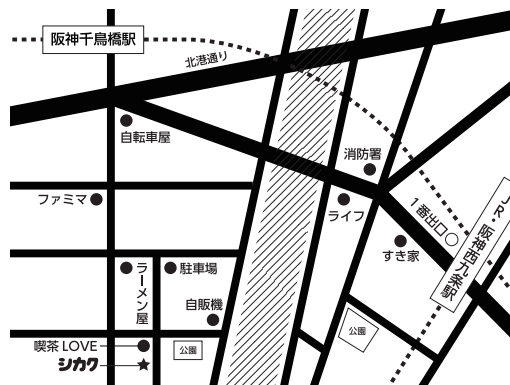
Website



X(Twitter)



Instagram



★ZINE・同人誌の委託 募集！

シカクではZINE・同人誌のお取り扱いをいつでも募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

★おたより募集！

シカク月報やシカクのお店・イベントの感想などをメールやDMで送っていただけると励みになります。

シカク

リトルプレスと雑貨とギャラリーのお店・シカクが贈る

ニュースとコラムのゆかいなペーパー

2025/
03



¥00



はまぎしかなえ個展「おばけBON！」

3/8 sat
3/23 sun

日常にいるおばけの楽しくもトホホな生活を描くイラストレーター・絵本作家、はまぎしかなえの個展。かっちりとした作品集から肩の力が抜けたZINEまで「BON！」と飛び出すおばけの本をお楽しみください！

Event News

3/15 sat ▶ 3/16 sun

出店

おかやま文芸小学校

とき | 11:00—16:00 ところ | 旧内山下小学校
お代 | 入場無料 持ち物 | 上履き・スリッパ

岡山のブックイベント初出店！ 全国から出版社・書店・図書館・文学に関わる人々が集まり、本の販売、トークイベント、ワークショップなどをする賑やかなイベント。

4/3 thu

inシカク

イベント

凡夜READING CLUB第9回トーク&ライブ 『ラブの隣で待ち合わせ』

とき | 19:30スタート お代 | 投げ銭

出演 | 凡夜READING CLUB:

藤井基二(古本屋 貳拾dB)

品品(フォークシンガー・いつかの世田谷ピンボンズ)

フォークシンガー・品品(ピンボン)と古本屋 貳拾dB店主・藤井基二のポンヤリトークユニット「凡夜 READING CLUB」によるトークショー。「深夜たまたま聞こえてきたラジオのようなトーク」をモットーに文学、音楽、思い出を頼りながら、世の中をまったくアップデートしない(できない)トークを繰り広げます。

4/5 sat ▶ 4/27 sun

inシカク

展示

中村杏子イラスト集『ノスタルジック来福』 発売記念展 The Final

ネオレトロポップなイラストレーター、中村杏子の画集発売記念展。去年の夏から始まり、全国+台湾を回ってきた巡回展のファイナル！ アナログ原画やホログラム箔を使った複製原画などを展示。巡回展の間に増えた作品やグッズも多数ありますので、すでに画集をお持ちの方もお見逃しなく！



シカク出版だより

4/23
発売

自由律俳句と妄想文学の名手
せきしろが贈る生活感×SF小説

宇宙の果てには売店がある

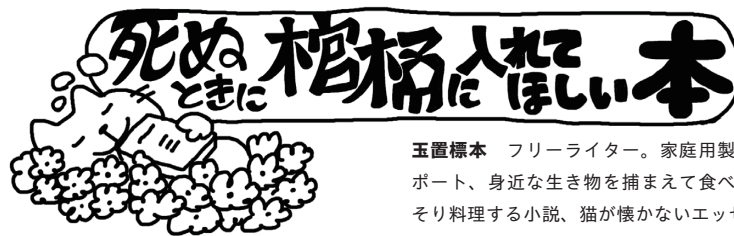
生活感のあるSF掌編集

B7サイズ 256ページ ソフトカバー
定価1,800円+税 ISBN : 978-4-909004-83-3 C0093

短編小説より短く詩歌よりも長い「ショートショートショート」とも呼べる作品群によって切り取られた、もうひとつの世界の生活と郷愁。数行で完結する超掌編の連作178編と、数ページの掌編11編を収録した、せきしろ初のSF小説集。



上田誠
(ヨーロッパ企画)
解説・推薦！



玉置標本 フリーライター。家庭用製麺機に関する本、伊勢うどんの調査レポート、身近な生き物を捕まえて食べる話、イタリア旅行記、ビジホでこっそり料理する小説、猫が懐かないエッセイなどを同人誌で発刊。

それが仮に近々の話なのであれば、やはり自分がこれまでに作った同人誌だろう。思い出や思い出が詰まっているから。これこそが自分の生きてきた証だから。いやいや、そういう感傷的な話じゃない。古本屋が引き取ってくれない同人誌なんて、遺産にとっては邪魔なだけ。燃やしたほうが恰好もつくだろう。だから棺桶に入れてほしいというよりは、可能であれば火葬の燃料にしたいだけないだろうか。「燃やすくらいなら私が欲しい」という人は、どうせ大して欲しくない人だ。

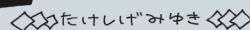
昨年の春、家庭用製麺機と同人誌を保管するために借りていた空調完備の倉庫が値上がりするという通知をきっかけに、その場所を解約することにした。自分のアイデンティティともいえる空間だったが、もし私が明日

にでも死んだとして、これほど困る負の遺産はないだろう。年間賃料は30万円以上、中身をすべて処分しなければ解約もできないのだから。

天井に穴の開いていた自宅の物置を買い替えて、そこに入る量だけに荷物をまとめるという作業を二か月かけて終わらせた。クリエイトする側の人間としての規模縮小。60台以上あった製麺機は大半を手放し(それでも十数台残したが)、同人誌も必要であろう在庫だけ残して古紙回収業者に引き取ってもらった。

製麺機はそれなりの金額になったが、古紙でしかない同人誌はチリ紙と交換してもらえず、これまで関わってくれた人になんだか申し訳なくなった。ありがとう。さようなら。それでもまだ同人誌を作っていく。

店主のひとりごと



去年の夏ごろ、髪を緑のインナーカラーに染めた。インナーカラーというのは内側だけ染めることで、普段は隠れているが髪を耳にかけたり風が吹いた時にアクセント的に見えるようになるやつだ。以前からぼんやりビビッドな染髪に憧れていたが、皮膚や髪があまり強くない体質のため「傷んでポロポロになりそう……」と恐れて手を出さなかった。しかしある日「どうせ言うてる間に年取って髪も抜けるねんから気にせんでよくない？」と、突然開き直って勢いで染めた。以来調子づいて色が抜けては新しいカラーを試している。

で、髪を染め始めてから気付いたのだが、染めたてでビビッドカラーが目立つ状態で店番をすると店主感が薄くなるようだ。元タバケーっとしたそこそこ若い女という属性のためか店主だと気付かれないことが多いのだが、その肌感覚が強まったし、ストレートに「店主さんはいますか？」と店主じゃないこと前提の質問をされることも増えた。

考えてみれば自分がお客さんの立場でも、例えばヴィレージヴァンガードのような雑貨屋で接客をしている金髪の方はバイト、奥のほうにいる黒髪の方が社員というイメージがある。上司と部下の板挟みになっていそうな社会人や、銀行とか取引先と関係を持っていそうな店主といった人物は、派手な印象を与えない髪色をしているというイメージがある程度一般的なのだろう。

私はなりゆきで店主をしているものの、本来は持ち上げられるのが苦手で下っぱ扱いされるほうが気楽なので、今の扱われ方がけっこう気に入っている。これからも色々なカラーや染め方を試していくつもりなので、どんなスタイルがどう店番に影響するか観察を続けたい。

